

只一念

人と人との思いやりを更に深めたく

佐久山地区社会福祉協議会



副会長

小谷 正美

若年齢者の都市部への進出等から、我が桜町においても急遽私が、高齢の身にして区長の任を与えられ、また、佐久山地区区長会の副会長の任を受けることになりました。

さらに、佐久山おもいやり隊副総隊長や佐久山地区社会福祉協議会理事等々、どれも全く経験したことのないものに携わることになり、迷いつつも九か月が過ぎてしまいました。振り返れば、先輩方へご迷惑をおかけしたのではと思っ

さて、今後の佐久山を「安心して住みやすい町」となることを希望して体験談を記します。



初対面の高齢者と最初の会話ができたことなのです。

寒い冬、暑すぎる夏、ゲリラの雨等、天候一つ見てもアクシデン

トばかりの目立つ昨今の世に、「たった独り」高齢で一日一日を大切に生きていらつしやる人がいる現実。

たまたま今回、地区社協の「食事サービスのお弁当の配布」のお手伝いを行いました。毎回女性ボランティアの方々が集まり、心を込めたお弁当が作られています。出来上がった、お弁当を私達は十二時のタイムリミットを基に三班に分かれ、いそいそお届けします。

すると利用者さんは玄関前に出で立ち、待っていてくれるのです。「たかが弁当ひとつ」なのに少々胸が痛むとき(雨の日など)もありました。お弁当を手渡しすると、とても大切な物を戴くようにして受け取ってくれ、感謝の言葉まで添えつつ見送ってくれるのです。

少々言葉交わし別れるときは、後ろ髪を引かれる思いにもなります。そして私の姿が見えなくなるまで見送ってくれているのです。もう少し会話のできる時

間が欲しいという気持ちのまま戻ることとなってしまいました。世間体などに惑わされてか、食事サービスを利用されていない人も沢山いるようです。「自分でできるうちは、自分でやる」も大切かも知れません。しかし月二、三回のお弁当配布です、大いに利用して欲しいものです。



少子高齢化の波は半端でなく大きいものです。それは佐久山の町並みを見ても一目瞭然のことだと思えます。だからこそ、地域の皆さんのより多くの方に「福祉活動」への理解と協力を戴いて「お年寄りを護り見守って」安心して住める、在りし日の佐久山に甦って欲しいのです。

その中で、平成二十二年に立ち上げた「おもいやり隊」の活動には目を見張るものがあります。滝田穂総隊長の下に沢山の隊員達が協力と活動を重ねてこられた結果、今では県内外からの注目を浴びるまでに成長をされています。

「おもいやり隊」の「思い遣る」は、美しいことばだとも思います。しかし、美しい言葉は得てして行動に移すことは、大変難しいものです。自分一人ならば「思う」だけで済むものが、そこに相手がいて「やる」になる。しかしその簡単な「遣る」がなかなかできないのが現実です。

それには、順序もあり、見ず知らずの人間同士の「あいさつ」から始まり、少し時間をおいて「片言の会話」が生まれ、「心と心の会話」ができるまでにはしばらくの時間も必要になります。しかしいったん話題に火がつけば楽しいときの流れになるのです。

私も日々の中で学んだことを、残りわずかの任期に活かす努力をしたいと思っております。

